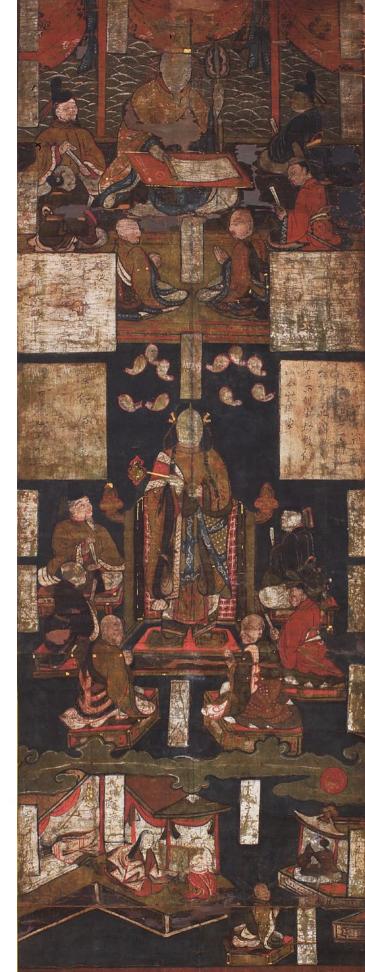
柳宗悦・動跡の工芸を中心に一

2016年 **9月1**日休 **-11月23**日休祝



日本民藝館

上・岩偶 縄文時代晩期 B.C.800年頃 15.9×19.3×5.2cm [1958 年蒐集] 右・聖徳太子略絵伝 絹本着色 室町時代 15~16世紀 123.0×38.7cm



- 右・陶俑 加彩牛 中国・唐時代 7世紀 17.5×28.0×9.3cm [1915年頃~1918年蒐集] ※2016年修復・初出品
- 下・墨梅図 紙本墨画 聞極筆 中国・明時代 15世紀 80.5×30.6cm [1953年蒐集・軸書墨書「宗悦清玩」]





1936 (昭和11) 年、47歳で東京・駒場に日本民藝館を設立した柳宗悦 (1889-1961)。無名の職人による日用の工芸品「民芸(民衆的工芸)」の美の発見者として知られる柳ですが、民芸運動の創始者だけでなく、美学者・宗教哲学者・思想家・美術評論家など、さまざまな言葉で形容されることからも分かる通り、柳の仕事は多岐にわたっていて、一言では形容し難い人物でもあります。

日本民藝館のコレクションは、創設以来民芸運動の拠点として、新作工芸の範とすべき古い工芸品を中心に形成されていきました。しかし、「民芸」誕生以前から行われ、最晩年まで続いた柳個人の蒐集を改めて振り返ると、一人のコレクションとしては極めて広範囲な分野にわたっていることが分かります。例えば、1910(明治 43)年に 21 歳で創刊に参加した雑誌『白樺』で取り上げた西洋近代美術を通じて、版画や複製画などで造形物への関心を高めてから、朝鮮陶磁に傾倒し始めた 1910 年代後半には、「絵唐津芦文壺」(重要文化財・2003 年指定)、「加彩牛」などの東洋陶磁や、仏教画「種子両界曼陀羅」など、東洋古美術の逸品が既に柳の手元にあったことが確認できます。そして、これら柳個人の蒐集品は、自身の還暦を機に日本民藝館へと寄贈され (1949 年)、現在に至っています。

創設80周年を記念する特別展第3弾である本展は、「民芸運動の創始者」としての柳よりも、生涯にわたって「信と美」を追求し続けた蒐集家としての柳に注目し、蒐集年代が明らかな日本のコレクションを中心に展示するものです。また本展は、蒐集された順を追って構成する初の試みとなります。『白樺』時代の蒐集をはじめ、「雑器の美」の発見、新作工芸運動や日本民藝館の設立へと展開した戦前の蒐集を経て、戦後に集中的に行われた古丹波焼の蒐集や、「仏教美学」の大成を目指した晩年の蒐集まで、柳宗悦の蒐集の軌跡を辿り、その生涯を振り返ります。



〔本館1階

『白樺』時代の蒐集 1910-1923

後に小説家として大成する志賀直哉や武者小路実篤らと共に、21歳で雑誌『白樺』 創刊に参加した柳宗悦。ほぼ毎号にわたる論文の寄稿と、掲載される西洋美術の図 版選定などに大きく関わる一方で、白樺時代の中期からは、中国や朝鮮の陶磁を始 めとする東洋美術に関心を寄せて行きます。はじめに、柳が蒐集を出発させた『白 樺』時代のコレクションを紹介します。

絵唐津芦文壺 重要文化財 桃山時代 17世紀 14.0×21.5cm〔1915年頃蒐集〕

[本館2階]

朝鮮の美術 1914-

1914年、千葉県・我孫子の柳邸に保管されていたロダンの彫刻を見るために朝鮮半島から訪れた浅川伯教。手土産の「染付秋草文面取壺(瓢形瓶部分)」に大いに感銘を受けた柳は、当時評価されていなかった陶磁器を始めとする朝鮮工芸を精力的に集め、1924年にはソウルに「朝鮮民族美術館」を開設します。蒐集は晩年まで続きますが、本展では戦前までの蒐集を紹介します。

掻落鉄差牡丹文扁壺 朝鮮時代 15世紀後半~16世紀前半 23.2×19.6cm [1920~30年代蒐集]





「木館 2 階

雑器の美 1924-1931

木喰仏「地蔵菩薩像」の発見を機に、木喰上人の調査のため全国を訪ね歩いた柳宗悦。その調査が、図らずも地方の下手な実用工芸、「雑器」に眼を向ける契機ともなります。 1926年には「日本民藝美術館設立趣意書」を起草。美術館設立に向けて、盟友の陶芸家・河井寛次郎や濱田庄司らと蒐集に努めた工芸品を中心に展示します。

焼締黒流茶壺 信楽 江戸時代 19世紀 31.7×28.3cm [1925年蒐集・「日本民藝美術館設立趣意書」掲載]

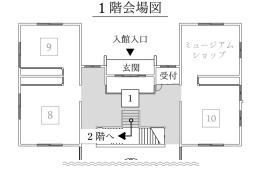
[本館2階

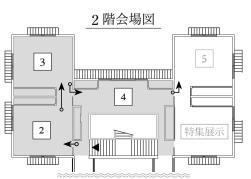
初期大津絵 1916頃-1926

江戸時代、大津の追分付近で旅人に販売された土産絵として知られる大津絵。大津絵の初めての体系的な研究書を著した柳が大津絵に興味を持ったのは、1916~17年頃、「民芸」誕生以前の大正時代。中でも早い時期に描かれた「初期大津絵」を集中的に集めています。館蔵の大津絵のうち、柳が大正時代に集めた「初期大津絵」を紹介します。

大津絵 提灯釣鐘(部分) 紙本着色 江戸時代 17世紀後半~18世紀前半〔大正年間蒐集〕









5

『工藝』創刊 1931-1951

柳らが見い出した工芸品が次々に掲載された1931年創刊の雑 誌『工藝』は、「民芸」という新しい概念の普及に大きな役 割を果たしました。表紙は芹沢銈介らによる装幀で、1951年 までに全120号が刊行されています。雑誌自体が一つの工芸 品とも呼ぶべき『工藝』とともに、掲載された様々な工芸品 を、館蔵品から紹介します。

『工藝』第1号 石皿特集 聚楽社 1931年1月 装幀・芹沢銈介



特集展示

「本館2階]

宗悦清玩

蒐集品の中には、収納箱や軸書に「宗悦清玩」と墨書したも のが絵画を中心に残されています。本展示室ではそれらに加 え、「物偈」(物の美を讃えた短句)が記されたものや、柳 が一文を草した蒐集品をあわせ、「清玩」されたコレクショ ンを特集します。

栗鼠図(部分) 制光筆 室町時代 16世紀 〔収納箱蓋裏に物偈墨書「誰ゾ 吾ガタメニ 描キケル」〕

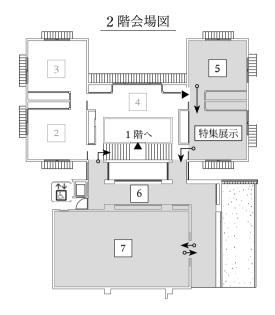


6

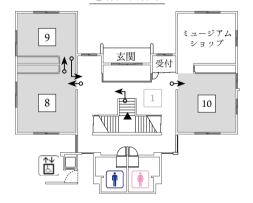
日本民藝館の設立

「日本民藝美術館設立趣意書」の起草から10年、東京・駒場 に念願の「日本民藝館」が設立されます。開館記念号となっ た『工藝』70号の掲載作や、当時の展示写真によって確認で きる戦前に陳列されたコレクションによって構成します。

鉄絵緑差草文大皿 美濃笠原 江戸時代 17世紀 10.1×39.5cm [1920年代蒐集·『工藝』70号(日本民藝館開館記念号)掲載]



1 階会場図



丹波焼の蒐集 1949-1961

初期民芸運動においても注目された丹波焼ですが、集中的 に蒐集が行われたのは晩年に当たります。それらの多くは、 焼成中に薪の灰が器表に掛かった「灰被」と呼ばれる品で、 火・土・木という自然の恵みを存分に受けたものでした。本 展示では、柳が晩年の10年程の間に蒐集した古丹波焼を紹介 します。

自然釉甕 丹波 鎌倉~室町時代 13~14世紀 42.8×40.5cm [1957年蒐集]



「抽象」と「破形」

柳は晩年「奇数の美」「抽象美について」「日本の眼」などを 著し、先住民族の造形に見られる原始的な抽象文や、日本の 鑑賞史で取り上げられてきた疵やゆがみなどに見られる「破 形」の造形に注目しています。1958年の「抽象紋特集」の図 版掲載品(『民藝』63号、多くが戦後の蒐集)を中心に、「抽象」 と「破形」の造形を紹介します。

> 紺地城文様夜具地(部分) 木綿、絣 明治時代 19世紀 [『民藝』63号(抽象紋特集)表紙掲載]



仏教美学 1946-1961

晩年の柳は、造形物に美が宿る原理を仏教思想に求めました が、同時に仏教に関連する造形も多く蒐集しています。本展 示では、柳の思想形成に大きな影響を及ぼした、浄土門の造 形を中心に、仏教画や経典・仏教版画などを紹介します。



仏花器 西教寺銘 桃山時代 1576年 47.0×20.0cm [1959年蒐集]

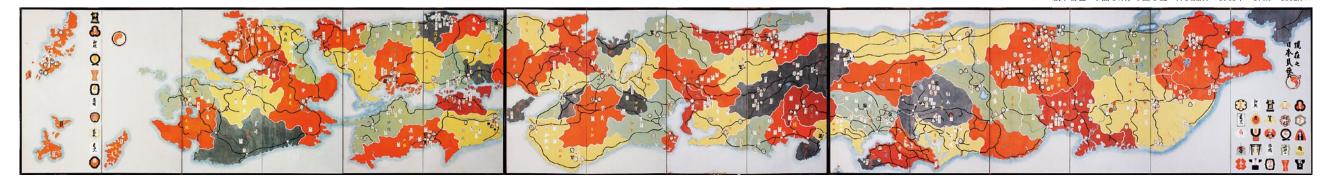


「現在の日本民藝」

1926-1945

日本民藝館の開館展が河井寬次郎、濱田庄司、芹沢銈介、棟方志功らの「現代作家工藝品展覧会」であったことが象徴する ように、精力的に行われた蒐集の一つが、新作工芸です。大展示室では、1941年の「日本現在民藝品展」のために製作さ れた芹沢銈介の大作「日本民藝地図」とともに、当時全国で命脈を保っていた新作工芸を紹介します。

日本民藝地図 (現在之日本民藝) 紙本着色 6曲1双、4曲1隻 芹沢銈介 1941年 170.0×1332.0cm











- 1. 京都・吉田神楽岡の柳邸にて 1928年撮影 手前左端が柳宗悦、後方飾棚左から2番目に「鼠志野柳文鉢」 が写る
- 2. 鼠志野柳文鉢 美濃 江戸時代 17世紀 9.2×30.2cm〔1920年代蒐集〕
- 3. 物偈「柳カナ ユガミ乍ラモ 風ノマニマニ」 (「鼠志野柳文鉢」収納箱への柳宗悦による箱書)
- 4. シノットとコリネット (ヴァージル『田園詩』のための挿絵)ウィリアム・ブレイク 木口木版、紙 1821年 6.2×8.4cm [1928年蒐集]
- 5. 地蔵菩薩像 木喰明満 江戸時代 1801 年 69.6×23.9×19.4cm [1924年蒐集]

至東北

記念講演会 「複合の美」の思想-蒐集の根底にあったもの

〔講師〕中見真理(清泉女子大学教授 国際関係思想史) 10月8日出 18:00-19:30

〔料金〕300円(別途入館料が必要)〔定員〕100名(要予約)

□10:00-17:00 (入館は16:30まで) □休館日 月曜日 (ただし祝日の場合は開館し、翌日振替休館) □入館料 一般 1,100円 大高生 600円 中小生 200円 □西館公開日 (旧柳宗悦邸) 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜(開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで)□所在地 〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33□電話 03-3467-4527 □交通 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

http://www.mingeikan.or.jp/ 日本民藝館



柳宗悦・

日本の工芸を中心に